

つくば市における食料品アクセスの測定と買い物困難の推計

村上 亮太（博士前期課程地球科学専攻）

- 1. 目的:**つくば市における食料品店の立地から食料品アクセスを測定し、買い物困難地区（食料品アクセスが低い地区）内に居住する65歳以上高齢者の人口を推計し、その特徴を分析することを目的とする。
- 2. 対象地域:**対象地域はつくば市である。また、本研究において調査対象とした食料品店は、食料品の取り扱いのあるスーパーマーケット、ドラッグストア、コンビニエンスストア、その他の食料品店の計183店舗である。
- 3. 研究方法:**まず、食料品店の立地をマップ検索サイトおよびSurvey123を用いた現地調査により整理する。次に、入手したポイントデータと道路データを用いてGISのネットワーク解析により各店舗から道路距離500m圏域を導き出す。そして、5次メッシュの統計データを用い、500m圏外の65歳以上人口を推計する。
- 4. 結果・考察:**スーパーマーケットはつくば市中央部に集中している。コンビニエンスストアもTXつくば駅を中心とした中心部に多く立地しているが、つくば市内に広く分布している。図1は、各食料品店から道路距離500m圏を表したものである。TXつくば駅周辺の人口密集地区では買い物困難地区が少ないものの、北部や東部など人口の少ない地区では、食料品店までの距離が非常に遠く、買い物困難地区が広く分布している。自宅から食料品店までの距離が500m以上ある買い物困難地区の居住者は141,431人(60.9%)であり、65歳以上では32,045人(75.1%)が買い物困難者と推計される(表1)。食料品店は人口が密集しているつくば駅周辺に多く分布してお

り、そこでは食料品アクセスは良好であるといえる。一方で、買い物困難地区も広く分布しており、つくば市の半数以上がそこに居住している。高齢者の割合のほうが、つくば市全体の割合を大きく上回ったことは、高齢者は中心部よりも食料品アクセスの低い周辺部に居住していることが多いといえる。またより生鮮食料品を入手できるスーパーマーケットへのアクセスが困難な高齢者はつくば市の9割以上に及ぶ。

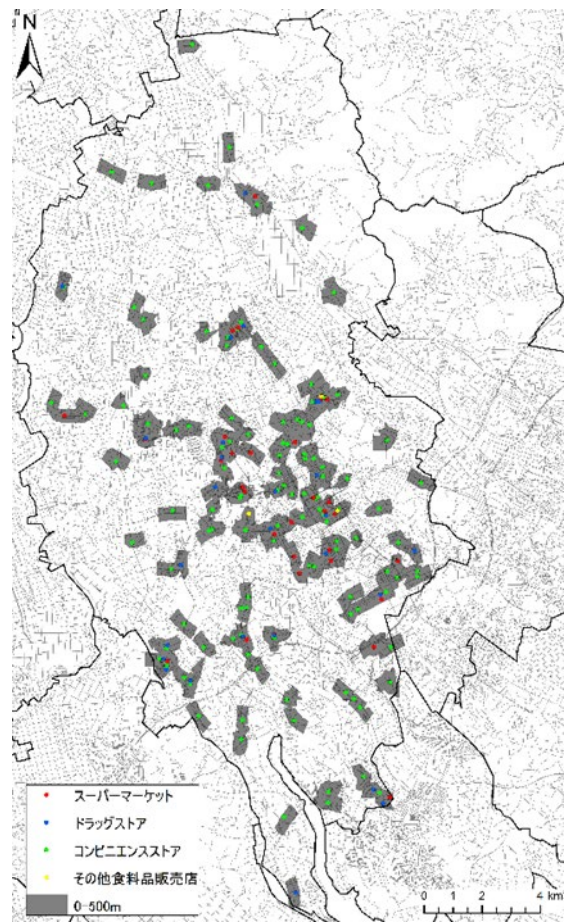


図1 つくば市における食料品アクセスマップ

表1 つくば市における買い物困難者の推計

	人口	65歳以上人口	75歳以上人口	高齢単身世帯数
食料品店	141,431 (60.9%)	32,045 (75.1%)	28,676 (74.7%)	3,137 (67.0%)
スーパーマーケット	202,739 (87.3%)	39,441 (92.5%)	35,417 (92.2%)	4,177 (89.2%)

※ 単位は人口(人)、世帯(戸)。

※ パーセンテージはつくば市全体における割合。